

107名の医学士誕生

第81回 卒業式



平成二十一年度大阪大学卒業式が三月二十三日午前十二時三十分より大阪城ホールに

て行われた。鷲田清 総長は、挨拶の中で「教養」と「責任」について、「プロフェッショナルが専門性を活かすためには、その知識が知の総体のなかでどのような位置を占めるかが問われる。自分が何を知っているかを見通せていることが「教養」である。また、「責任」といつ葉は、英語ではリスポンシビリティ(responsibility)というが、

第226号

社団法人
医学振興
銀杏会

06(6879)3501

G W fl 1

荻原俊男
米田正太郎
武田雅俊
黒木尚長

リスボンでござるといつこと
は、他者からの求め、訴え
応じる用意があるといつこと
で、他者の声を聴く耳を持ち
応じることのできることが
「責任」の意味である。その
際に大切なことは、ひとつび
のニーズにただちに応えると
いうのではなく、そのニーズ
が応えるべきもののかどう
かを考えつつ応えるといつこと
であり、そういう判断をする
ときに生きているのが「教
養」なのです」との祝辞を贈
られた。

<p>定期総会」案内</p> <p>開催日 平成二年五月一九日（土）</p> <p>開催場所 大阪大学医学部銀杏会館</p> <p>評議員会 支部長会 正午—午後一時三十分 特別講演 テーマ「ホスピス緩和ケアが目指すもの」 演者 阪大名誉教授・金城学院大学学長 懇親会 午後四時三十分より 楽曲 (一階レストラノ「ミネルバ」)</p>
<p>生としてつねに新しいチャレンジを忘れずに、普通の医療を超えた先進医療、高度医療を担う医師として活躍してほしい。阪大医学部の卒業生として二十年先を見据えた研鑽を続けてほしい」とお祝いの言葉が贈られた。</p> <p>最後に岸本忠三医学振興銀杏会学友会理事長からお言葉と卒業生代表にお祝いが贈られた。理事長は、「医学振興銀杏会は大正11年に発足した、歴史をもつ同窓会であり、七十数百名の会員を有している。阪大医学部卒という先輩とのつながりは年齢が進むとともに感じられるものである。これまで大学医局は、先輩の</p> <p>今日の感激を忘れずに医学振興のために研鑽を続けてほしい」と激励の言葉をかけられ、卒業式を修了した。</p> <p>平成二十一年度「楠本賞」は吉原正仁君にその栄誉が贈られた。平成二十一年度博士課程優秀者として十三名にその栄誉が授与され、</p>

期待が膨らんでいふことがあ
る。どのような分野に進もうとも、阪大医学部の卒業生の
誇りをもって、その分野の
リーダーになるべく日夜研
鑽を重ねてほしい」と述べられ
た。

続いて林紀夫病院長より
「これから社会での活躍に
おいては諸君の力そのもののが

<p>定期総会」案内</p> <p>開催日 平成二年五月一九日（土）</p> <p>開催場所 大阪大学医学部銀杏会館</p> <p>評議員会 支部長会 正午—午後一時三十分 特別講演 テーマ「ホスピス緩和ケアが目指すもの」 演者 阪大名誉教授・金城学院大学学長 懇親会 午後四時三十分より 楽曲 (一階レストラノ「ミネルバ」)</p>
<p>生としてつねに新しいチャレンジを忘れずに、普通の医療を超えた先進医療、高度医療を担う医師として活躍してほしい。阪大医学部の卒業生として二十年先を見据えた研鑽を続けてほしい」とお祝いの言葉が贈られた。</p> <p>最後に岸本忠三医学振興銀杏会学友会理事長からお言葉と卒業生代表にお祝いが贈られた。理事長は、「医学振興銀杏会は大正11年に発足した、歴史をもつ同窓会であり、七十数百名の会員を有している。阪大医学部卒という先輩とのつながりは年齢が進むとともに感じられるものである。これまで大学医局は、先輩の</p> <p>今日の感激を忘れずに医学振興のために研鑽を続けてほしい」と激励の言葉をかけられ、卒業式を修了した。</p> <p>平成二十一年度「楠本賞」は吉原正仁君にその栄誉が贈られた。平成二十一年度博士課程優秀者として十三名にその栄誉が授与され、</p>

最後に岸本忠三医学振興銀杏会学友会理事長からお言葉と卒業生代表にお祝いが贈られた。理事長は、「医学振興銀杏会は大正11年に発足した歴史をもつ同窓会であり、七千数百名の会員を有している。阪大医学部卒という先輩とのつながりは年齢が進むとともに感じられるものである。これまで大学医局は、先輩の卒業式を修了した。

平成二十一年度「楠本賞」は吉原正仁君にその栄賞が贈られた。平成二十一年度の「山村賞」は藤本康介君にその栄賞が贈られた。また平成二十一年度博士課程優秀者として十三名にその栄賞が授与された。

生としてつねに新しいチャレンジを忘れずに、普通の医療を超えた先進医療、高度医療を担う医師として活躍してほしい。阪大医学部の卒業生として二十年先を見据えた研鑽を続けてほしい」とお祝いの言葉が贈られた。

今日の感激を忘れずに医学振興所として機能してきたが、新しい医学は大学を中心とした研究から生み出されてくる。日本の医学が世界との競争に伍して発展するためには諸君たら若き人の力が必要である。

（三階大会議室）

総会 午後一時三十分（二時三十分
（三階阪急・三和ホール）

特別講演 テーマ「ホスピス・緩和ケアが目指すもの」

演者 阪大名譽教授・金城学院大学医学長 柏木哲夫先生

懇親会 午後四時三十分より（二階レストラん「ミネルバ」）

総会の委任状を御返信いたたかう
おかれましては、必ずご返信
お願い申し上げます。

定期総会ご案内

定期総会ご案内

平成22年5月29日（土）総会開催。委任状の提出にご協力ください。

日本學術振興會賞

山下俊英(平2)

竹田 潔 (平4)

4月1日から、林病院長の後任として附属病院長を拝命いたしました外科学講座（小児成育外科学）教授の福澤でございます。学友会員の皆様、今後とも宜しくお願い申し上げます。



福澤正洋(昭50)

病院長就任のあいさつ

金の継続的洞窟といふ厳しい状況であります。が、病院長のリーダーシップにより第一中期目標は達成することが出来ました。本年度より新たに第二期中期計画がスタートしますので、引き続き学友会員の皆様にはさらなるご支援を宜しくお願い申し上げます。

医療の安全は阪大病院に課せられた最も重要な課題であり、リスクマネジメント、医療クオリティマネジメントについては全国で最も進んでいる病院の一つであり、国立大学附属病院会議では医療安全管理体制を担当していますが

な若手医師が大学に戻って研究・診療・教育に研鑽していくことが重要であり、そのためには若い先生方に魅がある阪大病院になることが重要です。学友会会員の皆様には、今後ともご協力の程を願い申し上げます。

平成16年国公立大学独立法人化後、附属病院は運営費交付金の継続的減額という厳しい状況になりましたが、病院長のリーダーシップにより第一中期目標は達成することが出来ました。本年度より新たに第二期中期計画がスタートしますので、引き続き学友会員の皆様にはさらなるご支援を宜しくお願ひ申し上げます。

にして指定され、がん患者さんに対応する診療機能を充実させる方針です。さらに、稼動を始めた小児医療センター、総合周産期母子医療センターの機能を充実させることとも、今後の日本の医療の発展のために未来医療センターおよび臨床試験部の機能を充実させ、高度先進医療に対応することも、必要な臨床試験機能を高めてまいります。

はほほんルマントクケシメイ
た。また更に卒後3年目以後
の専攻医確保のために文部省
の「高度医療人養成推進事業
（平成20年から5年間）」
を強化し、専攻医が大学病院
と関連病院間を循環すると共
に、各プログラムと大学院と
が連携してリサーチマインド
を持った医師を育成していくま
す。大阪大学医学部の発展の
ためには、一人でも多く優秀な

率化を行いながら先進医療開発病院としての機能強化を図る必要があります。高度先進医療の推進を目指す阪大病院としては診療活動の活性化および充実はその基本であり、既に稼動している診療専門別センターに加えて平成20年4月からオンラインセンターを設置し、更に平成21年4月に「地域がん診療拠点病院」

さらにその機能を充実させ、国民の期待する安全・安心な医療を提供したいと考えています。前病院長の在任中は大きな医療事故はなかったので、今後も継続できることを祈っております。

公益社団法人への移行手続きの進捗状況について

標記手続につきまして、会員の先生方には平素よりご協力賜りありがとうございます。

平成21年の総会で新定款などを承認いただき、平成21年11月26日に内閣府に対し移行申請を行いました。その後、本年1月13日に担当理事と事務職員が内閣府に参りまして、申請内容についての説明を行いました結果、認定のためには定款を含めてさまざまなクリアすべき問題が存在するとの指摘がありました。

そのため、内閣府の指摘を反映したかたちで改めて新定款などを総会で承認したこととなり、本年5月開催の総会でも会員総数の四分の三以上のご出席または委任状のご提出が必要になりました。何度もご面倒をおかけすることとなり、申し訳ございません。

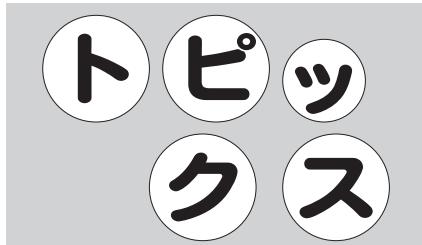
定款や会計状況に対する内閣府の指摘をクリアしましても、当会の母体が同窓会組織であることを内閣府の公益等認定委員会が最終的にどのように判断されるかは、同窓会組織からの申請がはじめてということもあって未知数です。あくまでも予定ですが、今年の総会後に再度申請を行った後、遅くとも平成22年度中には公益認定の可否処分が出される見込みです。

今後ともよろしくご支援をお願い申し上げますとともに、5月の総会へのご出席、または委任状のご提出を重ねてよろしくお願い申し上げます。

微小転移も見逃さない

—OSNA法による

乳癌リンパ節転移診断



乳癌の手術はこの20年あまりの間に大きく様変わりし、Halsted以来約100年近く行われてきた定型的乳房切除術はいまや日本ではほとんど行われなくなりました。かわって現在では乳房温存手術が最も多く行われており、また腋窩リンパ節郭清も、センチネル（見張り）リンパ節生検を施行して転移がなければ術後の上腕浮腫を避けるために省略するのが標準となりつあります。

しかし腋窩の郭清・非郭清を術中に判断するには、センチネルリンパ節の転移の有無を正確かつ迅速に診断する必要があります。通常はリンパ節を2mm間隔でスライスし、病理で凍結切片を用いた迅速診断を行いますが、微小転移を見落とすとの指摘もあります。この問題を解決するためには、1990年代半ばから分子生物学的手法を用いた転移細胞の検出に関する研究が数多く行われ、最近になってOSNA法（日本企業（シスメックス株式会社）が開発し

ました。OSNA法はリンパ節中に含まれる癌細胞のcytokeratin 19 mRNAをRT-LAMP法により増幅して検出するもので一般的なRT-PCR法に比べてサンプル処理が簡便で、約30~40分で結果が得られます。日本での多施設共同臨床試験で診断能が示され、平成21年4月に健康保険適用となりました。同年9月に阪大病院臨床検査部に装置が導入され、10月より実稼働に入りました。

現在は週に2~4例のペースでセンチネルリンパ節の術中診断が行われていますが、病理検索では転移陰性でありながらOSNA法で微小転移が発見された症例がすでに数例あり、その感度の高さが示されました。しかし一度に検査できるサンプル数や重量に制限があり、現時点では万一に備えて病理標本も取つておかねばならないなどの問題点もあって、まだすべてのリンパ節をOSNA法で検索できるまでには至っていないません。

そのひとつがOSNA（one-step nucleic acid amplification）法で、日本の企業（シスメックス株式会社）が開発しました。OSNA法はリンパ節に含まれる癌細胞量を半定量できることから、非センチネルリンパ節への転移や乳癌の予後そのも

のを予測する上で大変重要な情報を得られるものと期待されています。また、乳癌以外に大腸癌などでも臨床試験がいます。

進んでおり、リンパ節転移の検索は顕微鏡から試験管へと時代がもつてきただけであります。

乳腺・内分泌外科学
玉木 康博（昭56）
野口眞三郎（昭56）



阪大病院臨床検査部に導入された RD-100i
(OSNA 法によるリンパ節転移診断装置)

提言

医療の基盤となる専門医制度の構築を

我が国の専門医制度の歴史は古いが、未だ成熟していないことについて、3年前の本ニュースの「提言」で触れた。その後、筆者が委員長を務める日本専門医制評価・認定機構「専門医あり方委員会」において、その制度設計を検討してきたので、その骨子を紹介し、各位の批判を仰ぎたい。

まず、専門医の定義である

が、特殊技能を有する医師のことを言うように思っている人がいるが、ここでは「専門医とは、我が国の医療制度の基盤をなす医師の専門性を示すもので、各々の診療領域の責任性のある標準的診療を行うことのできる技量（知識、技能、態度）を修得したと認定された医師を言う」としてい。

そもそも、国民から専門医が、特殊技能を有する医師のことを言うように思っている人がいるが、ここでは「専門医とは、我が国の医療制度の基盤をなす医師の専門性を示すもので、各々の診療領域の責任性のある標準的診療を行なうことのできる技量（知識、技能、態度）を修得したと認定された医師を言う」としてい。

そもそも、国民から専門医が、特殊技能を有する医師のことを言うように思っている人がいるが、ここでは「専門医とは、我が国の医療制度の基盤をなす医師の専門性を示すもので、各々の診療領域の責任性のある標準的診療を行なうことのできる技量（知識、技能、態度）を修得したと認定された医師を言う」としてい。

そこで、この点を整理する。そこで、この点を整理する。そこで、この点を整理する。そこで、この点を整理する。

現地の旅行社と直接連絡するスのチャリティーコンサートと日本の旅行社に注文する費用の約半分で上がる。今年は大阪出身の20歳の井山佑太名り2008など、次は2012年祭である。ついでに北野高校バスケットOB会長で開

正岡子規の食べた菓子パンの復活を果たした松山のパン屋

河敬世先生（昭45）にお願いします。

ために「新しい専門医は自らの専門領域を標榜できる」としている。そのためには、現在の学会単位の専門医制度から重複のない診療領域ごとの専門医制度へと変更する必要

が生じる。制度の整備が求められるようになつたのは、我が国においては医師が開業する時に診療科の自由標榜制が認められて

更に、現状の我が国の診療体制を勘案すると、基本領域の「基盤専門医」と各基本領域より専門性の高い領域

医制度の標準化を図り制度評価と専門医認定を行い、後者では、各専門医制度の研修プログラムや研修施設の標準化を図り評価と認定を行うこと

としている。

特に、専門医認定の評価では、研修プログラム（医療安全や医療倫理に配慮し、診療件数や診療内容を含む）を重視し、認定試験の方法を併せて内形基準を定め、これに準じて行う。研修施設認定の評

価は、研修施設における研修

としている。

さて、その第三者機関の機

能であるが、専門医評価認定員数を併せた内形基準を定め、部門とプログラム評価認定部

の担保を重視する制度を目指すものとなつていて。

今後、これを実行に移すた

めにはまだ多くの課題も

とすることとし、現行の外形

基準重視から真の専門医の質

これに準じて行つ。

その評価は現地調査を原則

とする必要がある。

医制度の標準化を図り制度評

価と専門医認定を行い、後者

では、各専門医制度の研修

プログラムや研修施設の標準化

を図り評価と認定を行うこと

としている。

特に、専門医認定の評価では、研修プログラム（医療安

度そのものの基盤である）と

全や医療倫理に配慮し、診療

件数や診療内容を含む）を重

めに強く認識し、関係者一同が

努力する必要がある。

特に、専門医認定の評価では、研修プログラム（医療安

度そのものの基盤である）と

全や医療倫理に配慮し、診療

件数や診療内容を含む）を重

めに強く認識し、関係者一同が

紹
介
診
療
科

小兒科

大阪大学小児科は53名の教員、その同窓会組織は59名の会員を擁し、日本の小児医療に貢献している大きな組織である。

昨今 小児科医の減少が社会問題の一として取り上げられるが、大阪大学小児科は、優秀な小児科医の養成に努力し、社会のニーズに応えている。診療科として、内科が臓器ごとに編成されているのにに対し、小児科は、臓器ごとに細分化された専門性と全身性を診る総合性的のバランスがとれた診療科であると考えられる。従つて、高度な専門性を保つつつ総合的な視点を持つことこそ、病気のみを対象とするのではなく、病める小児を全人格的に扱つことが当科の目標である。

当科は、専門グループとして、腎・骨代謝、血液腫瘍・免疫、臨床神経、神経代謝、臨床遺伝、発達障害・睡眠、栄養発育、循環器、新生児、臨床ウイルスの9臨床・研究グループに分かれている。こ

れに加えて、内分泌グループも発足した。

大学病院の診療科としては、小児疾患の外科系と密接な関係を有する小児医療センターおよび産科と結びついた総合周産期医療センターという両センターの中核をなし、幅広い小児・新生児疾患に対し、高度な医療を提供している。特に、他診療科のレベルの高さと合わせて、合併症を有する妊婦から生まれる新生児や外科的合併症を有する新生児の管理・治療に優れていると思われる。さらに、豊能の広域こども急病センターに出務するともに、高度救命救急センターと協力体制を敷いて重症患者を受け入れ、地域の小児救急医療に貢献している。

小児の最大の特徴は、成長し発達することにあると考えられるが、成長異常に関しては、内分泌学的、骨代謝学的栄養学的観点から検討し、治療に当たっている。小児内分泌疾患・骨疾患の症例数は国内外でもトップレベルで、日本

内分泌学認定教育施設となつてゐる。神経系の発達に関しては、てんかん、脳症、睡眠障害、自閉症などに対し機能的診断と治療を行つてゐる。このため、昨年より正式に発足した小児発達研究科、子どものこうの分子統御機構研究センターと密接な連携をとつてゐる。

また、先天性代謝疾患に関する研究には伝統的に取り組んでいたが、最近は酵素補充療法や造血幹移植などの治療とその評価法の開発を積極的に進行つてゐる。日本骨髄バンク、海外バンク移植およびHLAミスマッチ移植認定施設であり、小児の腫瘍患者の治療に関し、豊富な経験と優秀な成績を誇つてゐる。また、心移植患者や先天性心奇形患者を多く治療・管理しており、日本小児循環器専門医修練認定施設群に認定されている。さらに、胆道閉鎖症、劇症肝炎などの重症肝疾患に対し、肝移植を治療選択に含めた治療・管理を行つてゐる。感染

症に関しては、基礎疾患有をする小児に対してワクチン接種を行い、さらに、感染症制御部と協力して院内感染症対策

にも参加している。遺伝子、療部門における臨床遺伝の実施にも積極的に参加している。卒後研修に関しては、豊

診療実績は、このように、豊富な症例数と充実したスタッフおよび大阪と阪神間の主要な病院からなる関連病院との協力体制に基づいて、優れた小



細胞の作製に成功し、病態解析や薬効の評価、そして再生医療に活かしたいと考えている。今後も、学友会の諸先生のご指導、ご支援をお願いする次第です。

次回は、心臓血管外科の澤教授にお願いさせていただきました。

に扱つたのが当科の目標である。
当科は、専門グループとして、腎・骨代謝、血液腫瘍、免疫、臨床神経、神経代謝、臨床遺伝、発達障害・睡眠、栄養発育、循環器、新生児、臨床ウイルスの9臨床・研究グループに分かれている。こ

小児救急医療に貢献している。小児の最大の特徴は、成長し発達することにあると考ふられるが、成長異常に關しては、内分泌学的、骨代謝学的、栄養学的觀点から検討し、治療に當たっている。小児内分泌疾患・骨疾患の症例数は国内外でもトップレベルで、日本

秀な成績を誇っている。また、心移植患者や先天性心奇形患者を多く治療・管理しており、日本小児循環器専門医修練認定施設群に認定されている。さらに、胆道閉鎖症、劇症肝炎などの重症肝疾患に対応し、肝移植を治療選択に含めた治療・管理を行っている。感染